

Update Information:

2026/10/05/ 8:50 PM

◆各話へのクイックリンク

※設定資料を飛ばして、本編を読まれる方は、クイックリンクを使って飛ばすことができます。

□ 本編

Copyright@2026 D's

「私が工業高校に進学した理由 一学期」

「クリスマス特別編」

夢雄
美侶

設定資料

タイトル

あらすじ

シリーズ構成

記号

「私が工業高校に進学した理由 二学期」

・クリスマス特別編（短編）

小村は美優と、吉賀は松子と、クリスマスの日に上手くいかず、そんな二人が
出会ってしまった。ラブストーリーは突然に。正に二人のクリスマスタイム

・「私が工業高校に進学した理由 一学期」

・「私が工業高校に進学した理由 二学期」

・前編 第一話から第四話まで

・後編 第五話から第十話まで

★本作

・「私が工業高校に進学した理由 三学期」

□第〇幕 サブタイトル

○場所

▽ト書き

登場人物

小村 健一（こむら けんいち）（十五歳）

高校一年生（増本中学校出身）
イケメンで、女子にもてる要素をもちながらも、すごく純粋で
世間知らずなところあり。

吉賀 達郎（よしが たつお）（十五歳）

高校一年生

身長 160センチ 体重48キロ 華奢で色白
カリブ海に浮かぶ小国の外交官の息子
海外生活のため、露出など気にならない性格
小村のことが好きである

○吉賀の住むタワーマンション

新增山（しんますやま レジデンス）

五十階建ての構想マンション 最上階に吉賀が住んでいる

目次

目次

「私が工業高校に進学した理由 二学期」

設定資料

あらすじ 小村は美優と、吉賀は松子と、クリスマスの日に上手くいかず、そんな二人が

出会ってしまった。ラブストーリーは突然に。正に二人のクリスマスタイム

シリーズ構成

記号

登場人物

目次

クリスマス特別編

サブタイトル 「クリスマス特別編」

□第一幕 吉賀のマンションの前で

○（夜八時すぎ）吉賀の住んでいるマンションの前

□第二幕 吉賀の家のリビングで

○（クリスマスの夜）吉賀家のリビング

○バスルームのシャワーブース	16
（#AⅠによるイメージ画像#）	18
○（同）吉賀の家のリビング	18
（#AⅠによるイメージ画像#）	20
（#AⅠによるイメージ画像#）	22
○（同）リビング	23
（#AⅠによるイメージ画像#）	24
（#AⅠによるイメージ画像#）	27
（#AⅠによるイメージ画像#）	31
（#AⅠによるイメージ画像#）	50
○（翌朝）吉賀のマンスヨンの寝室	50
（#AⅠによるイメージ画像#）	52
おわり	53

Copyright@2026 D³S

「私が工業高校に進学した理由 二学期」

クリスマス特別編

夢雄 美侶

サブタイトル 「クリスマス特別編」

Copyright@2026 D³S

□第一幕 吉賀のマンションの前で

○（夜八時すぎ）吉賀の住んでいるマンションの前

吉賀 松子を駅まで送って、帰ってきたところ

▽吉賀 マンションの中に入ろうとしている

▽小村 自転車を漕ぎながら吉賀の家の前を通りかかる
遠巻きに吉賀の姿を見つけ、声をかける

小村

「吉賀」

▽吉賀 小村の声に気づき、振り向く

小村が自転車に乗って向かってきているところに気がつく

▽小村 吉賀の前で自転車を止める

吉賀

「あれ、小村君 こんな時間にどうしたの」

小村

「あ、ちょっと出かけてたんだ。吉賀は」

▽小村、美優といたことをごまかす

吉賀

「僕は、そのコンビニに行ってたの」

▽吉賀、さっきまで松子といたことをごまかす

小村

「コンビニに行ったと言う割に、何も買っていないように見えるけど」

吉賀

「行ってみただ、別に欲しいものがなかったんだ」

小村

「そっか」

吉賀

「今から家に帰るところだったんでしょ」

小村

「そうだけど」

吉賀

「今日から、冬休み。しばらく、部活も休みみたいだから、しばらく会えないね」

小村

「そうだな。でも、みんなで初詣に行くじゃないか」

吉賀

「そっか。そうだね。みんなに会うの楽しみだな」

小村

「ああ、俺も」

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

「ねえ、まだ、時間あるなら、家に寄っていかない」

「もう、遅いけど、実は、俺も まだ帰りたくないんだ」

「そうなの。本当言々と僕も クリスマスに一人で家にいたくなくて」

「じゃ、冬休みだし。ちょっと寄っていくか」

「うん」

□第二幕 吉賀の家のリビングで

○（クリスマスの夜）吉賀家のリビング

吉賀が ソファーに座っている

▽小村、窓側に立って、スマートフォンで話をしている

「じゃ」

▽小村、スマートフォンの通話を終わる

▽小村、吉賀の横に座り、吉賀の顔を見る

「よし、家には吉賀の家に寄ってるって伝えからか大丈夫、それに」

「それに」

「冬休みだし、帰るのは明日になるかも って伝えたよ」

「やった。じゃ、ゆっくり話できるね」

「だね」

小村
吉賀
小村
吉賀
小村
小村

吉賀

「ところで、お腹すいてない。僕、晩御飯 まだなの」

小村

「あ、そう言えば 俺もだった。なんか、吉賀の顔みて安心したら、急に腹が減ったよ」

吉賀

「じゃ、クリスマスだし、ピザでも頼もうか」

小村

「いいの」

吉賀

「いいよ。ピザを食べたいけど、一人じゃ注文しづらくて」

小村

「じゃ、ゴチになるか」

吉賀

「うんうん」

▽小村、下半身の違和感に気付く

さつき、射精しまままでパンツが気になり出す

小村

「それと、シャワー貸してくれない」

吉賀

「どうぞ、使って」

小村

「それと」

吉賀

「それと」

小村

「パンツも貸してくれるかな」

吉賀

「そうだね。シャワー浴びたら、パンツも新しいのがいいよね。いいよ。あとで、持って行ってあげる」

小村

「何から、何まで、悪いな」

▽小村、バスルームの方に行く

(数分後)

○バスルームの脱衣場

シャワーブースでは小村がシャワーを浴びている音が聞こえる

▽吉賀、バスルームに入ってくる

▽吉賀、着替えを棚に置こうとする

Copyright@2026 D's

吉賀

▽吉賀、床に小村の脱いだ、パンツとジーンズが目につく

▽吉賀、小村のパンツを畳もうと手に取る

▽吉賀、小村のパンツから異臭を感じる

▽吉賀、小村のパンツを臭う

「小村君」

▽吉賀、小村の脱いだ物を洗濯機に入れる

▽吉賀 服を脱ぎ出す

○バスルームのシャワーブース

#吉賀の家のバスルームには、シャワーブースがある

▽吉賀、シャワーブースに入ってくる

▽吉賀、小村の横に並んで立つ

小村

吉賀

小村

吉賀

小村

▽小村、シャワーと止める

「吉賀もシャワー浴びにきたのか」

「僕も、ピザ食べる前に、シャワー浴びておこなうって思ってた」

「そうだよな」

「食べたあと、ゆっくりできるね」

「そうしよう」

▽小村 吉賀、シャワーの湯を出し、再びシャワーをあび始める

吉賀

小村



(#A1によるイメージ画像#)

○(同) 吉賀の家のリビング

小村、吉賀は、上半身裸で、体育の白のランパンを穿き、バスタオルで髪を毛を乾かしている

「ごめん。パンツの予備、無くなってた」

「いいよ、気にしない。でも、これって吉賀が体育の時に必要者のじゃないのか」

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

「大丈夫、それ、サイズ間違えて買ったやつなんだ。だから小村君にあげるよ」

「サンキュー。洗濯もしてくれてるし、良い嫁になれるぜ」

「小村君の、お嫁さんなら、なってもいいかな」

「またまた。吉賀には、中川さんがいるだろう」

「ま、そうだけど」

▽吉賀 小村、上半身は裸のまま、床のに座っている

吉賀
小村

#ピンポン# (呼び鈴が鳴る)

「来た」

「来た」

(#AIによるイメージ画像#)



吉賀

▽吉賀 インターフォンを取る

「はい。すぐに開けます」

▽吉賀 上半身裸のまままで ドアの方に向かう

(数分後)

#玄関の呼び鈴が鳴る#

▽吉賀、立ち上がり、リビングから玄関に向かう

▽吉賀 ピザの箱を持って、リビングに戻ってくる

「この格好で、取りにいったやつだ」

「さすがに、その格好だと 驚くよな」

「ピザ屋のお兄さん、寒くないですか だって」

「そりゃ、真冬の格好じゃないもんな」

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

小村

▽吉賀 ピザの箱を、机に置く

▽吉賀 ピザの箱を開ける

「うまそー」

「よし、食べよう」



(#A Iによるイメージ画像#)

Copyright@2026 D's

吉賀

小村

(数分後)

○(同)リビング

吉賀、小村はピザを食べ終わり、ソファの前の絨毯の上で、横になって話をしている

「腹一杯で、幸せ」

「僕も」

▽小村、横向きに寝ている

▽吉賀、小村に向かうように横向きに寝ている

Copyright@2026 D's

吉賀

小村

「え、チキンじゃないの」

「クリスマスはピザだよな」

(#AIによるイメージ画像#)



小村

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

▽小村、上半身を起こす

「そうか、チキンを忘れてた」

▽吉賀、上半身を起こす

「じゃ、チキンも取ろうか」

「もう食えないって。ほら」

▽小村、腹を出し 手でさする

▽吉賀、小村に近づく

▽吉賀、小村の腹の上をさする

「本当だ。パンパンだ」

「な」

「うん」

Copyright@2026 D's

小村

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

▽吉賀、小村の顔を見つめる

▽小村、吉賀を見つめる

「なに 吉賀。顔に、何か付いてる」

「さっき、小村君のパンツを洗濯機に入れる時、精液の匂いがした」

「そ、そうか」

「どうして」

「俺、気がつかなかったけど」

「ねえ、自分でしたの」

▽吉賀、小村を後ろから抱き着く

Copyright@2026 D's

小村

吉賀

小村

(#AIによるイメージ画像#)

「えっと、自分とえば、自分だけど」

「ちゃんと教えて」

▽小村、一呼吸

「実は、さっきまで、夢前と会ってた」



吉賀

「まさか、夢前さんと エッチしたの」

小村

「するわけないだろ」

吉賀

「じゃ、なんで」

小村

「その、キス、キスをしようして、夢前の顔に近づいて」

小村

「そしたら、急に 起ってきて」

小村

「急に射精してしまつて。だから、慌てて、帰ってきたんだ」

吉賀

▽吉賀、小村から少し顔を離す

「ほんとうに、それだけ」

小村

「俺、吉賀に嘘ついたことあるか」

吉賀

「うん。わかった信じるよ」

小村

「信じてもらえてよかった」

Copyright © 2026 D's

吉賀

「じゃ、僕も正直に話すけど、さっきまで、ここに、松子ちゃんがいたんだ。

小村

「中川さんが」

吉賀

「で、いろいろ有って、松子ちゃんが、僕のを扱ってくれたんだけど、
ぜんぜん起たなくて、射精しなかった。松子ちゃん、怒ってるだろうな」

小村

「そんなことが合ったのか」

吉賀

「うん。ちょっとショックだったよ」

小村

「いかされ慣れしてるからかな」

吉賀

「もう、いかされ慣れってなんなの」

小村

「いや、いつもの吉賀なら」

吉賀

「僕が、いつもイカされてるみたいじゃん」

小村

「そついうなよ。だから、今日はおとなしかったんだな」

吉賀

「おとなしいって」

小村

「最初見たとき、泣きそうだったぞ」

吉賀

「そんなわけではないよ」

小村

「うそうそ。でも、ちょっと落ち込んでた雰囲気はあったかな」

吉賀

「やっぱ、小村君には、隠せないね」

小村

「俺たち、面白いな。俺は、射精して、吉賀は射精できないって」

吉賀

「ほんとうだ、面白いね」

▽吉賀、小村の顔をじっとみる

小村

「何」

吉賀

「ううん。なんでも」

▽吉賀 さらに、小村に顔を近づける

小村

「どうしたの」

▽吉賀 目を瞑り、小村の顔にさらに近づける

▽吉賀 小村にキスをする



(#AIによるイメージ画像#)

▽小村 驚き目を大きくするが、目をつぶり、吉賀のキスを受け止める

(数秒後)

▽吉賀 小村とのキスをやめ、目を開ける

▽小村 目を開ける

「ね、射精した」

「いいや大丈夫だった。そっちこそ、勃起した？」

「うん。こんなに」

▽吉賀 小村の手を自分のランパンの上に持っていく

▽小村 吉賀の陰茎をランパンの上から握る

「本当だ。めっちゃ起ってる」

「でしょ」

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

吉賀

小村

吉賀

小村

▽吉賀 もう一度、小村の顔を見る

▽吉賀 小村をゆっくりと押し倒す

▽吉賀 小村の胸の上に頭を付ける

▽吉賀 耳を小村の胸に付ける

「心臓が、ドキドキしてるね」

「俺、今、すげえドキドキしてる」

「僕も」

▽吉賀、小村の手を掴み、自分の胸に当てる

「ほんとうだ」

▽吉賀、小村の顔を見つめる

▽小村、吉賀の顔を見つめる

Copyright©2026 D's

吉賀
小村
吉賀

▽吉賀、目を瞑り、顔を近づける

▽小村、目を瞑る

▽吉賀、再び 小村にキスをする

▽吉賀、小村の口の中に舌を入れる

▽吉賀、自分の舌で小村の舌を絡める

▽小村、吉賀の舌を自分の舌で絡める

#数分後#

▽吉賀、顔を上げる

「初めてなのに、上手だね」

「急に、舌を入れるからびっくりしたよ」

「気持ち悪かった」

小村

「ぜんぜん」

▽吉賀 小村の乳首の先を指先で触る

小村

「あつ」

吉賀

「小村君の乳首って、かわいいよね」

小村

「そうかな」

▽吉賀、小村の乳首を舌先でついたり舐め回したり

小村

「あ、あつ、あ」

▽小村、腰を上下に振る

吉賀

「気持ちいい？」

吉賀

「もっと気持ち良くしてあげる」

▽吉賀 小村のランパンの上から小村の陰茎を握りゆっくりと扱く

吉賀

「ねえ、出してみる」

小村

「さすがに三回目はないよ」

吉賀

「そうかな」

▽吉賀 手を小村のランパンの中に入れ、小村の陰茎を握る

吉賀

「ここは、早く出してって言ってるよ」

小村

「どうしてかな」

▽吉賀 小村の上半身の上で、四つんばいになる

▽吉賀 小村の乳首を舐める

小村

「あつ、よ、よしが、だめ」

吉賀

「かわいい声。もっと出していいよ」

小村

「あ、あ、あ、いい」

▽吉賀 四つんばいの状態

▽吉賀 小村の胸を舐め回す

▽吉賀 少し下がり 小村のヘソの周りを舐める

▽吉賀 小村のランパン上から、ガチガチになった陰茎を舐める
白いランパンが吉賀の唾液で濡れ、透けてくる

吉賀 「皮かむりちゃん。カワイイ」

▽吉賀 小村の膝に座る

▽吉賀 小村の太股をさすりながら、ランパンの中に両手を入れる

▽吉賀 小村のランパンの中の陰茎を握り、突っ込んだ両手で陰茎を優しく扱く

小村 「あん、あん」

吉賀 「気持ちいいの」

▽小村 両手顔の上で組み顔を隠す

小村のワキ毛が見える

吉賀

「ワキ毛も素敵だよね」

▽吉賀 ランパンの中で、小村の陰茎を激しく扱う

▽小村 腰を振り始める

▽吉賀 小村のランパンの裾から、陰茎を取りだし 口に咥える

小村

「うん、あ、うん」

▽吉賀 ランパンの裾か、自分の陰茎を取り出す

▽吉賀 自分の陰茎と小村の陰茎を握り 腰を振りながら扱きだす

小村

「あ、あ、あう」

吉賀

「うん、うん、うん」

▽小村 吉賀、腰を振っている

吉賀

「ねえ、入れていい？」

小村

「うん」

▽吉賀、小村のランパンを脱がしはじめる

▽小村、脱がせ易いように足を曲げだす

▽吉賀、小村のランパンを脱がし終わる

▽吉賀、自分のランパンを脱ぐ

▽吉賀、自分の陰茎を小村の肛門の入り口に当てる

▽吉賀、自分の陰茎を持ち、小村の肛門から入れようとする

▽小村、肛門になにか冷たい柔らかいものが当たる感触

小村

「だめ、やっぱり、だめ」

▽吉賀 手を放す

「じめん」

▽小村、上半身を起こす

▽小村、吉賀を見つめる

▽小村、吉賀に顔を近づける

▽小村、吉賀の肩をもち、くるっと回って、吉賀を寝かせる

▽小村、吉賀の上半身の上で、よつんばい

▽小村、顔を吉賀の顔に近づける

▽小村、目を瞑る

▽吉賀、目をつぶる

▽小村、吉賀にキスをする

▽小村、吉賀の口に舌を入れる

Copyright©2026 D's

▽吉賀、小村の舌を自分の舌で絡める

(数秒後)

▽小村、顔を離す

▽小村 吉賀の顔を見る

「ごめん。やっぱり、ケツは無理だよ」

吉賀

「ごめん 僕が無理矢理やり」

▽小村 吉賀の上に跨がる

▽小村 吉賀の乳首を舐め回す

吉賀

「あん、あん。こ、こむらくん」

▽小村 吉賀の胸を舐め、腹、ヘソを舐める

▽小村 吉賀の陰茎を口に咥え、頭を上下に動かしたす

吉賀

吉賀

▽吉賀 腰を上下に動かす

▽小村 口を離し、吉賀の陰茎を握り扱きだす

「あ、あ、あう、い、いきそう」

「あう」

▽吉賀 射精する

勢いよく精液が飛び出し、吉賀の腹の上に散る

▽小村 吉賀の陰茎をゆっくりと扱う

亀頭の割れ目から残った精液が搾りだされる

(数秒後)

○吉賀家のリビング

吉賀 小村 ランパンだけを穿いて、仰向けに並んで寝転んでいる

「ちゃんと いったじゃないか」

「うん。小村君のおかげ」

吉賀

小村

小村

「そうかな」

吉賀

「今度は僕が、小村君が　すぐに射精しないように、寸止めで鍛えてあげる」

小村

「寸止めてっなんだよ」

吉賀

「いいから」

▽吉賀　横向きになり、片手で頭をささえる

▽吉賀　空いた方の手で、小村の乳首をさすりだす

小村

「くすぐったいよ」

吉賀

「ふふふ」

▽吉賀　頭を小村の胸の上にもっていき、乳首を舌先で、つつき出す

小村

「あ、あ、あう」

▽吉賀　小村の顔をじっとみる

吉賀

「小村君、乳首 弱いんだね」

小村

「しょうがないだろ」

吉賀

「どっちが感じるのかな」

▽吉賀 手を下にずらし、小村のランパンの中に手を入れ陰茎を握る

吉賀

「こっちも、ビンビンだね」

▽吉賀 小村の亀頭の先を指先で撫でる

小村

「あ、あっ」

▽小村 身体を左右にひねり、腰を上下に動かす

吉賀

「感度いいよ」

▽吉賀 小村の陰茎を握り扱きだす

小村

「あ、あ、あ、や、やばい」

Copyright©2026 D's

小村

吉賀

小村

吉賀

小村

吉賀

▽吉賀 扱くのをやめる

▽小村 動きが停まる

▽吉賀 小村の陰茎を扱く

「あ、あう」

「気持ちいい」

「やばいって、直ぐに射精しちゃうよ」

「がまん、がまん」

▽吉賀 小村の陰茎を扱く

「で、でそう」

▽吉賀 扱くのを止める

「小村君を いじめるの面白い」

Copyright@2026 D³S

小村

「もう。許してくれよ」

▽吉賀 小村の陰茎を扱きだす

小村

「もう、もうだめ」

▽吉賀 ランパンから手を出し、ランパンの上から小村の陰茎を握り扱きだす。

吉賀

「いって いいよ」

小村

「もう、もうだめ。うっ」

▽小村 腰を大きくもちあげ、足がピンと伸びる

▽吉賀 小村の陰茎をゆっくりと扱う

小村のランパンの亀頭を包んだ部分から、精液が滲み出てくる

吉賀

「いっちゃった」

▽吉賀 小村の横に寝転ぶ

Copyright@2026 D's

吉賀

▽吉賀 横を向き 小村が上を向いて、荒々しく呼吸しているのを見る

「どうだった」

▽小村 吉賀の方を向く

「気持ち良すぎるよ」

小村

吉賀

「よかった」

▽小村 吉賀のおでこにキスをする

▽吉賀 小村の上に乗る抱きつく

▽吉賀 顔を上げ、小村の顔を見る

「僕、小村君のこと、最初にあった時から好きだったんだ」

吉賀

「え、俺」

小村

「うん」

吉賀

▽吉賀 小村の胸に頬を押し当て、ギュッと力を込めて抱きつく

▽小村 吉賀の身体を両手で抱きかかえる

小村 「俺、わかんないや」

小村 「今は、夢前なのが気になっているし」

吉賀 「うん。わかってる」

小村 「だから、吉賀のことは まだわからないよ」

吉賀 「いいの。今は、こうしているだけで」

▽吉賀 小村の顔を見る

吉賀 「僕って、変かな」

小村 「そんなことは無いよ」

吉賀 「だって、男どうしだよ」

小村

「そうなんだけど、不思議と吉賀なら、受け止められるよ」

吉賀

「本当？怒ってない？」

小村

「怒るわけないだろ」

吉賀

「よかった」

▽吉賀 もう一度、小村に抱きつく

吉賀

「とっても、気持ちいいよ」

小村

「俺も。なんか不思議」

吉賀

「シャワー浴びに行こうか」

小村

「そっだな」

Copyright@2026 D³S



(#A Iによるイメージ画像#)

○(翌朝) 吉賀のマンションの寝室

キングサイズのベッドで、吉賀と小村が全裸で寝ている上には毛布がかけてある

▽吉賀、目を覚ます

▽吉賀、隣に小村が背中を向けて寝ているのに気付く

小村

小村

吉賀

▽吉賀、小村の背中に抱きつく

▽吉賀、小村の背中に顔を付ける

▽吉賀、手を小村の股間の方に

▽吉賀、小村の朝立ちした陰茎を握る

▽吉賀、小村の朝立ちした陰茎を扱きだす

「うっ、あ」

▽小村、吉賀の手を押さえる

▽小村、頭を吉賀の方に向ける

「こら」

「いいじゃん」

▽吉賀、毛布をめくり、小村の上に寝転ぶ

(#AIによるイメージ画像#)



Copyright@2026 D³S

「私が工業高校に進学した理由 二学期」

くクリスマス特別編く

おわり